

報道関係各位

能登半島地震(M6.9)の前兆と思われる現象を捕捉

～神奈川・厚木測定点で大気イオン濃度異常上昇～

NPO 法人大気イオン地震予測研究会 e-PISCO(理事長：弘原海清^{わだつみ きよし} = 大阪市立大学名誉教授、事務局：大阪市西区)では、大気イオン濃度の急上昇が大地震の有力な前兆現象と考え、大気イオン濃度測定器を全国 11 か所に配置し、測定を続けています。弊会の測定ネットワークのうち、神奈川・厚木測定点で、2007 年 3 月 25 日 09 時 42 分に能登半島沖で発生した「平成 19 年(2007 年)能登半島地震」(M6.9)の地震の前兆と思われる大気イオン濃度異常を捉えることに成功しました。

報道各位には、ご多忙中恐縮ではありますが、本件の周知ならびに取材を賜れば幸いです。

弊会の詳細につきましては、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.e-pisco.jp/>

【お願い】 掲載後、記事を下記事務局まで郵送くださいますよう、お願い致します。

本リリースの問い合わせ先

NPO 法人 大気イオン地震予測研究会 e-PISCO

理事(事務局長兼務) 岡本 和人

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1 丁目 4-21

日宝肥後橋中央ビル 304 号

Tel/Fax : 06-6444-3781 E-mail : npo@e-pisco.jp

解説資料

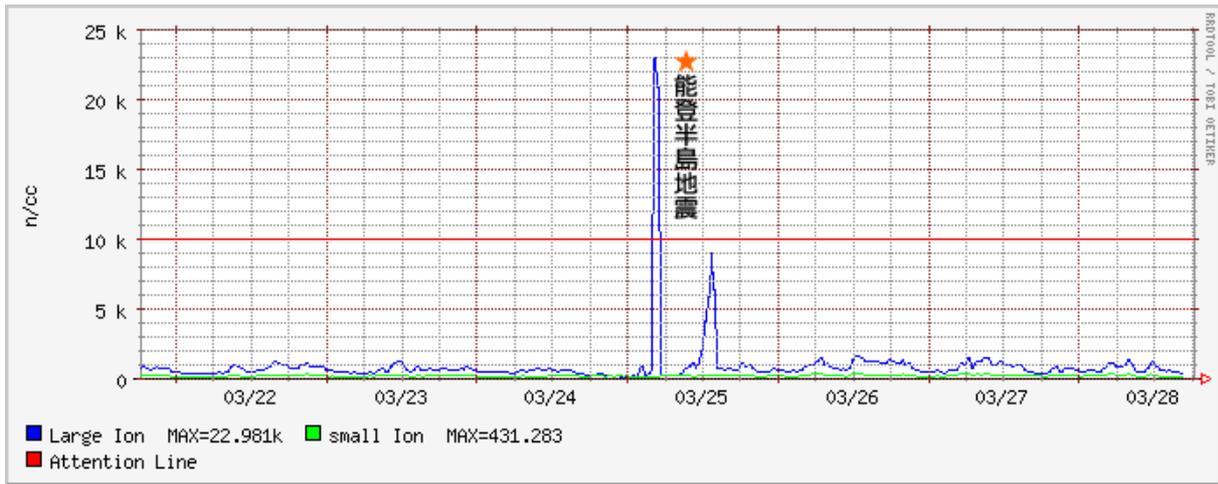
神奈川・厚木測定点では、能登半島沖地震発生の約 5 時間前に大気イオン濃度の異常上昇(22,981 個/cc)を記録しました。震央から厚木測定点までの直線距離は 307km です。なお、最寄り測定点の松本測定点では、特段の異常値は認められませんでした。また、本震当日の午後にも上昇(9,041 個 /cc)が認められましたが、余震に対応する可能性があります。5 時間後の 18 時 11 分には M5.3 の最大余震が発生しています。

宏観異常現象としては、e-PISCO に報告された数としては、同規模の 2004 年新潟県中越地震にくらべて少ない印象があります。いずれも地震後に報告されたものですが、金沢市では「21 日、22 日の夕焼けが異常に赤く感じられた」、同じく金沢市で地震前夜の 24 日夜、「風が生暖かく気持ち悪かった」との報告があります。また、報道されているように日本海側ではダイオウイカが大量に捕獲されています。さらに、現地メディアからの情報では、地震前に地鳴りのような音が多数聞かれているようです。

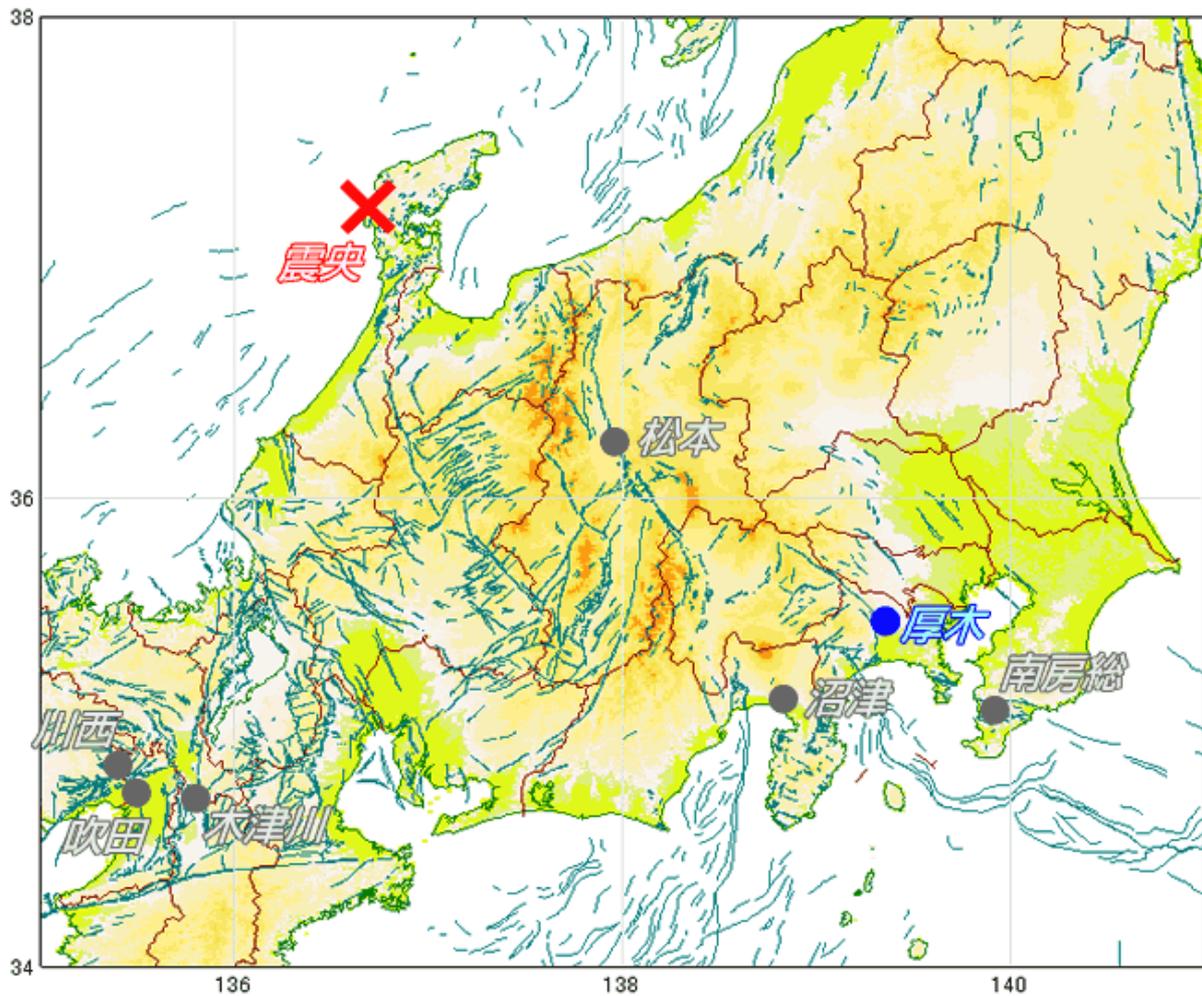
地震活動としては、元々低調な場所であり、際立った前震活動は認められません。

前兆と思われる現象を捕捉できたことは評価すべきですが、その一方で能登半島地震から学んだこともあります。今回のように前兆としての大気イオン濃度異常発現から地震までの時間が極めて短い場合、弊会が注意喚起することができないこともあり得ます。私達もこれまで以上にデータを注意してみなければならぬと感じておりますが、会員の皆様、市民メンバーの皆様、その他ユーザーの皆様におかれましても、大気イオン濃度グラフや宏観異常情報を日頃から注視し、また身の回りの自然現象の異常を感じられた際には、宏観異常をご報告くださいますようお願い致します。

なお、弊会がサポートしております株式会社 ePI-NET 発行の「e&e FAX 情報サービス」を購読されている方々には、2 月 14 日の兵庫・南あわじ測定点異常以降、紀伊半島沖に対して注意喚起していますが、能登半島地震をもって注意情報を解除することはできないと考えております。また、弊社役員・測定点管理者のなかには、3 月 25 日の厚木測定点での異常が紀伊半島沖での海洋性地震の前兆と捉える者もおります。引き続き、海洋性地震にご注意ください。



神奈川・厚木測定点における大気イオン濃度変化



震央と各測定点の位置関係